様式第5号（第9条関係）

論 文 内 容 の 要 旨

報告番号		氏　名	次橋　幸男
Long-term prognosis of enteral feeding and parenteral nutrition in a population aged 75 years and older: A population-based cohort study （和訳）後期高齢者における人工栄養開始後の生命予後：医科レセプトデータを用いたコホート研究			

論文内容の要旨

背景

高齢患者に対して、人工栄養である胃瘻造設術（GS）、鼻腔栄養（NGT）又は植込み型ポートからの中心静脈栄養（PN）が開始される際には、生命予後に配慮した治療選択が望まれる。しかしながら、これまで人工栄養開始後の年単位での生命予後については大規模データを用いた報告は行われていなかった。そこで、本研究では奈良県後期高齢者の医科レセプトデータ（約17万人分）を用いて、人工栄養開始後の長期的予後を分析した。

方法

研究デザイン：奈良県後期高齢者医療制度レセプト（KDB データ）を用いたコホート研究

対象：2014 年 4 月から 2016 年 3 月までの入院期間中に GS（N=770）、NGT（N=2,370）、PN（N=408）を受けた 75 歳以上の患者 3,548 人を本研究の対象とした。さらに、GS 群を胃瘻造設術の 365 日以内が NGT 又は PN が先行して実施されていた Secondary GS（N=400）群と、先行する NGT 又は PN の記録の無かった Primary GS（N=370）群に分類した。

主たる要因：人工栄養タイプ（Primary GS, Secondary GS, NGT, PN）

主なアウトカム：人工栄養開始から 730 日以内の死亡率

統計解析方法：対象を悪性腫瘍群と非悪性腫瘍群に分けた上で、人工栄養開始後 730 日までの生存曲線を作成した。さらに、性、年齢、併存疾患、病院タイプで調整した Cox 回帰分析を行い、人工栄養タイプ毎の死亡率を比較した。

結果

対象となった 3,548 名のうち、2,384 名（67%）が人工栄養開始後 730 日以内に死亡していた。Secondary GS、Primary GS、NGT 及び PN 群の 2 年死亡率は、非悪性腫瘍群で 58%、66%、68%、83%、悪性腫瘍群では 67%、71%、74%、87%であった。Cox 回帰分析の結果、非悪性腫瘍群では、PN と比較して Secondary GS（（Hazard Ratio: HR）＝0.43、95%CI：0.34-0.54）、Primary GS（HR＝0.51、95%CI：0.40-0.64）、および NGT（HR = 0.71、95% CI: 0.58-0.87）と開始後 2 年以内の死亡率が有意に低かった。

結論

後期高齢患者の約 58-87%が GS、NGT、PN による人工栄養開始後 730 日以内に死亡していた。非悪性疾患群において、鼻腔栄養又は中心静脈栄養の開始後に胃瘻造設が行われた患者は、鼻腔栄養又は中心静脈栄養が行われた患者よりも人工栄養開始から 2 年以内の生命予後が良好であった。後期高齢患者に対して人工栄養を開始する際には、その有効性と限界を考慮した治療選択が求められる。